ポスター発表

2025年11月1日(土) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-15] 高校生居住地と大学までの距離の変容

*寺田 悠希[1] (1. 高知大学)

キーワード：大学の地域配置、進学、高校生、教育の地理学、アクセス

2025年に出された文部科学省中央教育審議会による、いわゆる「知の総和」答申では、18歳人口が減少する中で、高等教育におけるアクセス確保が政策目的の一つとされた。これまでの先行研究は、都道府県単位での大学収容率や進学距離とその規定要因を中心に議論してきたが、地域的な不均衡をより的確に捉えるためには、さらにミクロな単位での検討が不可欠である。そこで本発表では、国勢調査メッシュ統計を基盤とし、独自に構築した大学配置データベースを組み合わせることで、1970年から2020年にかけて10年ごとに高校生の居住地から進学先大学までの距離を計算し、その変化を時系列的に分析・可視化することを試みる。この方法により、地域格差の空間的パターンやその変遷を明らかにし、単なる集計指標にとどまらない「アクセス可能性」という視点から、高等教育の地域配置政策の検討に資する知見を提示できると考える。

©一般社団法人地理情報システム学会